

堺利彦 さかいひこ 小説家、評論家、縦譯家、社會運動家。明治二十一年一月二十五日豊前國生れ、昭和八年一月二十一日歿（八七〇—一九三三）。筆名おれのは、おれ川、おれ川漁史、しぶた、トシヒコ、とし彦、みな菴主人おれ川、ユーモリスト、一空々零生、中村利彦、堺、堺おれ川、堺枯川、堺生、孤禪、彦、枯川、枯川漁史、枯川生、枯禪、水無菴主人、由分子、白翁、石溪道人、細香、貝塚遊六等。第一高等中學校中退。實兄久伸居士等の浪華文學會に加はり小説を發表。明治二十二年朝報社入社。二十六年浪社として幸徳秋水と平民社を興し、週刊『平民新聞』を創刊。翌年筆禍で下獄。二十九年日本社會黨評議員となり、雑誌『社會主義研究』創刊。四十一年赤旗事件に連坐して再度下獄。四十三年賣又社設立、大正二年『おへちまの花』（翌年『新社會』と改題）創刊。九年日本社會主義同盟に参劃、十一年日本共產黨創設に加はり初代委員長と、十二年辭職して離脱。昭和四年東京市會議員。歿後『堺利彦全集』全六卷（昭和八年中央公論社。再刊・四十五年一四十六年法律文化社）刊。

譯書、ゾラ作『子孫繁昌の話』（堺枯川名、編、明治二十五年十一月）  
 『質素儉約の話』（同、編、明治二十六年一月）  
 『家庭夜話』（同、編、明治二十六年二月）  
 『質素儉約の話』（同、編、明治二十六年一月）  
 『家庭夜話』（同、編、明治二十六年二月）  
 『質素儉約の話』（同、編、明治二十六年一月）  
 『家庭夜話』（同、編、明治二十六年二月）



ゾラ作『労働問題』（枯川名、抄譯、明治二十七年四月十六日春陽堂）、  
 『シエロームケイシエローム作』  
 『ノンキ者のノンキ話』（貝塚遊六名、五

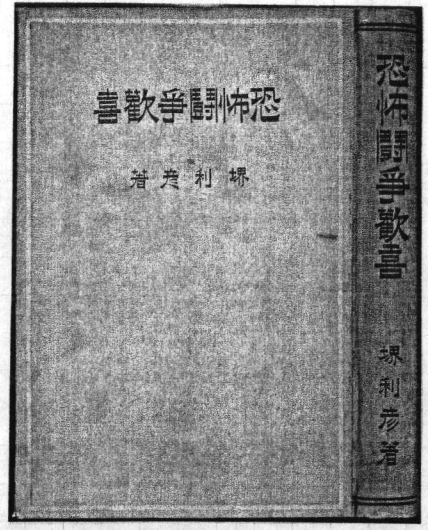
版・明治四十五年二月二十五日内外出版協會)、バーナードシヨウ作  
「人と超人」(大正二年十一月四日内外出版社「大正文庫」)、カマ  
ペンター著「自由社會の男女關係」(大正四年十一月六日東京堂書店  
「生活と藝術叢書」)、レスター・ウオード著「女性中心説」(解説、  
大正五年一月一日牧民社)、JACK LONDON 作「野性の呼聲」(大正八  
年五月七日、普及版・昭和二年四月五日叢文閣)、キリアム・モリス  
作「理想郷」(抄譯、大正九年一月八日アルス)、エミール・ゾラ作  
「労働」(大正九年二月二十五日叢文閣「労働と藝術叢書」)、アプト  
ン・シンクレア作「パイ」(志津野又郎共譯、大正十二年一月十九  
日大佑社)、パンネコック著「社會主義と進化論」(マルクス説とダダ  
キン説との關係)「(大正十二年四月二十日無産社「無産社パンフレ  
ット」・附録「マルクスとダダキン」)、ヘルマン・ゴルテル著「唯  
物史觀解説」(大正十二年六月二十五日白揚社)、マルクス著「労働  
と資本」(四版・大正十四年二月二十一日無産社「無産社パンフレッ  
ト」・改題再刊「賃労働と資本」昭和十一年一月十五日彰考書院  
「解放文庫」)、河「利潤の出處―原各「價值と價格と利潤」」(二  
版・大正十四年八月五日無産社「無産社パンフレット」・改題再刊  
「價值・價格及び利潤」昭和二十年十一月二十五日彰考書院)、ジヤ  
ック・ロンドン作「ホワイト・ファンゲ」(白牙)「(大正十四年十月  
二十一日叢文閣・再刊「ホワイト・ファンゲ」昭和四年二月二十日改造  
社「改造文庫」)、マルクス著「<sup>唯物史觀要約</sup>資本主義の史的傾向」(大正十五年  
四月二十日無産社「無産社パンフレット」)、ゾラ作「ジエルミナル」  
(昭和二年二月十七日無産社)、フリードリヒ・エンゲルス著「社會

主義の發展―空想的から科學的へ』(昭和四年二月)日改造社「改造文庫」)、マルクスの著『共產黨宣言』(幸徳秋水共譯、昭和二十年十一月)日彰考書院「解放文庫」、マルクスの著『ゴータ綱領批判』(昭和二十一年四月)日彰考書院「解放文庫」、ハイドマン著『社會進化の必然―生産方法の歴史的觀察』(昭和二十一年六月)日彰考書院「解放文庫」等。

著書『家庭の新風味』(堺祐川名、全八冊合本、明治二十六年九月一日、再刊、二十七年十一月十日内外出版協會)、『社會主義の詩』(編、明治二十九年四月十一日由分社)、『猫の首つり』(貞塚遊六名、大正七年十一月十日松本商會出版部)、<sup>改訂</sup>『増補猫のあくび』(同、大正八年四月十五日松本商會出版部)、『唯物史觀の場から』(大正八年八月十二日二田書房)、『恐怖』

闘争・歡喜』(大正九年四月一日聚英閣「社會問題批判叢書」)、荒川義英稿『青年の手記』(編、大正九年五月)日聚英閣「社會文藝叢書」、『革命ロシアの研究十講』(合著、前衛社―田所昭明編、大正十一年十月二十八日海井書店)、『野

外劇の一幕』(大正十二年五月十八日改造社「改造社隨筆叢書」)、『社會主義大意』(十一版、大正十四年六月十五日無産社「無産社パンフレット」)、『パリ・コンシエンの話』(附)『パリ・コンシエンとボリシエキ革命』(大正十四年十一月十九日無産社「無産社パンフレット」)、『雷なき行脚』(昭和二年七月)日改造社、『櫻の國



著・前衛社―田所昭明編、大正十一年十月二十八日海井書店)、『野外劇の一幕』(大正十二年五月十八日改造社「改造社隨筆叢書」)、『社會主義大意』(十一版、大正十四年六月十五日無産社「無産社パンフレット」)、『パリ・コンシエンの話』(附)『パリ・コンシエンとボリシエキ革命』(大正十四年十一月十九日無産社「無産社パンフレット」)、『雷なき行脚』(昭和二年七月)日改造社、『櫻の國



・地農の國ロ（昭和二年十月）平白現代エウモヤ全集刊行會「現代エ  
ウモヤ全集」）、「辯證」「法的唯物論の話」（二版）・昭和四年八月十九日無  
産社「無産社パンフレット」等。